

第134回交流フロア運営会議（議事概要）

1 日時・場所

日時：2023年6月7日（水）18：30～20：00

場所：伊丹市立図書館ことば蔵 1階交流フロア

2 参加者数 18名

3 会議内容

<新規提案>

（1）子ども向けお仕事紹介

【概要】

- ・子ども向けのお仕事紹介を、3つの時間帯にわけて1日で行うイベント。
- ・これまでに開催したお仕事紹介イベントでは、大人だけでなく子どもの参加も多かった。また大人向けの講座でも、子どもと参加したいという問い合わせがあり、講座内容をどの年代に向けたものにするべきか考えていた。そこで、今回は子ども向けのお仕事紹介イベントとして開催しようと企画した。
- ・薬剤師の紹介と、鉄工所の紹介は確定。あとひとり協力者を募る。
- ・子ども向けということで、何か体験コーナーを設けたい。鉄工所体験では、工具を触ってみるコーナー、薬剤師体験では、お菓子を薬に見立てて説明しようと考えている。

【意見】

- ・鉄工所の体験コーナーは何をするのか。
- プラスチックの溶接を考えている。火を使わずに溶接体験ができる。
- ・薬剤師のお仕事紹介について。
- お菓子の代金をことば蔵で負担することはできない。また、飲食を伴うイベントはできない。検討が必要。
- ・お菓子を渡すことについて、アレルギー反応が起きる可能性があるため、お菓子の代わりにおはじきや文房具を薬に見立てて渡してはどうか。
- ・前回の薬剤師紹介には、どれだけ子どもが参加していたのか。
- 大学生を含め、5人が参加していた。

（2）詩のボクシング

【概要】

- ・自作の文章を赤コーナー、青コーナーに分かれて3分（イベントによっては5分）で発表し、

面白さや表現力で勝敗を決めるイベント。トーナメント形式でチャンピオンを決める。

・2015年に「ことば相撲」という名前で開催したことがある。今回の開催にあたり、「詩のボクシング」という名称が使用可能かどうかを、公式まで問い合わせる必要あり。

・同じような文芸関連のイベントに「伊丹文芸ことそうし」があるが、自分の文章を発表する場が欲しいと思い、企画した。

・本来の詩のボクシングは審査員が勝敗を決めるが、ことば蔵では、観覧者が勝敗を決める。

・企画者は、発表者としてイベントに参加したいので、当日は司会を誰かにお願いしたい。

【意見】

・作成する文章では、お題やテーマがあるのか。

→ない。自由に詩を作ることができる。

・トーナメントの各ラウンドでは、違う文章を発表しないとイケないのか。

→特に制限はない。制限時間に収まれば何を発表しようが自由。

・審査員は発表される文章を事前に知っているのか。

→知らされていない。本番のパフォーマンスのみで審査する。

・審査の基準を明確にしたほうが良いのではないか。

→本来の詩のボクシングでは、審査の基準は特にない。審査員次第。しかし、ことば蔵では観覧者に審査をお願いするため、何かしらの基準を設けるべきか考える。

・文章生成AIの参戦について。

→自作の文章という制限があるため、AIによって生成された文章は発表できない。参考にするだけなら問題はない。

・いつそのこと、AI 枠として参戦させたり、AI による生成と明らかにしたうえで引用したりしても面白いのではないか。

(3) 交流フロア夏休みイベント

【概要】

・ことば蔵夏休みイベントとして、いろんな企画者と協力してイベントを開催。

・8月19日(土)で確定済み。小学生とその家族を対象に、6つのブースを出す。入退場は自由。

・参加者(敬称略): イタミライフキーパー

つく Mo で build

漫画を語ろう、細尾

こどものそだち研究所、いしだ

はれのひ、かたやま&絵描きもりもとあけみ

ストップ食品ロスいたみ、小田

・レイアウトや時間についてはこれから調整していく。

【意見】

・各ブースでの体験は時間を区切るのか、出店スタイルのように自由に出入りしてもらうのか。時間に区切りがあると、ブースの待ち時間が発生し、こどもたちが嫌厭してしまうかもしれない

い。

→基本は出店スタイルでぐるぐる回ってもらうが、こどものそだち研究所のみ時間を区切る。できるだけ満遍なく回ってもらえるようにレイアウトは考える。

・たくさん人が来てがやがやしすぎないか。また、各ブースのキャパシティは耐えられるか。

→手段としては入場規制をすることもできるが、人が来ないのも困る。たくさん人が来た時のために、導線や人の流れを考えながらのブース設営が必要になる。

・たみまるの召喚について。

→調整は可能。だが、たみまるの補助にも人手がいるため、あまり現実的ではない。

・クレヨンの使用を基本禁止にしているが、ブース内での使用は必須なのか。

→おえかきのブースでは企画者オリジナルのクレヨンの使用がイベントの中心。対策を講じて使用したい。

(4) 親子で遊ぼう！紙芝居 vol.4

【概要】

・はがきサイズの画用紙4枚に自由に絵をかいて紙芝居をつくるワークショップ。

・こどもは紙芝居を、保護者はレトルトカレーの箱を切り抜いて紙芝居の台をつくる。

・紙芝居の絵には、図書館の図鑑を参考にして書いても良い。

・ハードルが高いのか、人の集まりが悪い時期もある。できれば夏休みに開催したい。

【意見】

・はがきサイズの画用紙はことば蔵で用意できるが、さすがにレトルトカレーの箱は用意できない。

→レトルトカレーの箱は参加者に持ってきてもらう。また、色紙やのり、マスキングテープなどの小物もあれば参加者に持ってきてもらいたい。

・だいたいどれくらいで完成するのか。

→全部で1時間半の想定。最初に紙芝居の説明をして、どんどん作ってもらう。そんなに時間はかからないが、小さい子が1枚1枚にこだわりだすと、とても時間がかかる。分単位のこまめな時間管理が必要。

・できあがった紙芝居はそのまま持って帰ってもらうのか。夏休み期間中だけでも、作品をことば蔵に展示してもらえば面白いのではないか。

→参加者の作品をゆっくり見たいと思っていたので、ぜひ検討したい。

・参加対象が「親子」となっているが、年齢は制限しないのか。

→親子であれば誰でも参加できる。60代の親と40代の子どもでも参加可能。

<イベント報告>

(1) キッズサバイバー講座 (地震編)

参加者は6人。当日、神戸新聞に取材に来ていただき実際に記事にもなった。基本的な防災についてのお話と、救急救命の体験をしてもらった。前回ははずかしくて心臓マッサージをして

くれない子もいたが、今回はみな反応良く体験してくれた。

(2) 伊丹文芸ことそうし

参加者は3人。いつも通りのメンバーで活動した。だんだん雑談が増えてきている。地名が文章中に出てくると、その地についての経験や知っていることで話が盛り上がった。

(3) お仕事紹介シリーズ「薬剤師のお仕事」

参加者は16人。学生も興味がある内容ではないかと指摘を受け、講座日を日曜日に設定。実際に、薬剤師の進路を考えているという高校生や、これから国試を受けるという学生が参加され、薬剤師について様々な質問を受けた。

小さいお子さんとお母さまからの問い合わせもあったが、今回の講座は子供向けには作っていなかったため、参加を断念させてしまった。

今回のお仕事シリーズとは別に、何か子ども向けの薬剤師講座を開きたい。

(4) 漫画を語ろう！

参加者は8名。今回のテーマは「元気がでる漫画」。尼崎からも二人の参加があった。野球漫画や、「がんばれ元気」、「あしたのジョー」などで盛り上がった。

次回は6月28日(水)18時30分～テーマ「出会いと別れ」。こじつけでもなんでもいいのでぜひご参加ください。

(5) 俳聖松尾芭蕉を学ぶ講演会

参加者は17名。過去最高のイベント参加者で喜ばしい。広報伊丹を見て申し込みされた方が多かった。参加者は50代から80代が多かった。講座は配布資料とホワイトボードを使ったアナログ形式。反省点は時間が足りなかったことと、誤字を板書してしまったこと。

4 次回の運営会議 2023年7月5日(水) 18:00～ ことば蔵1階 交流フロア